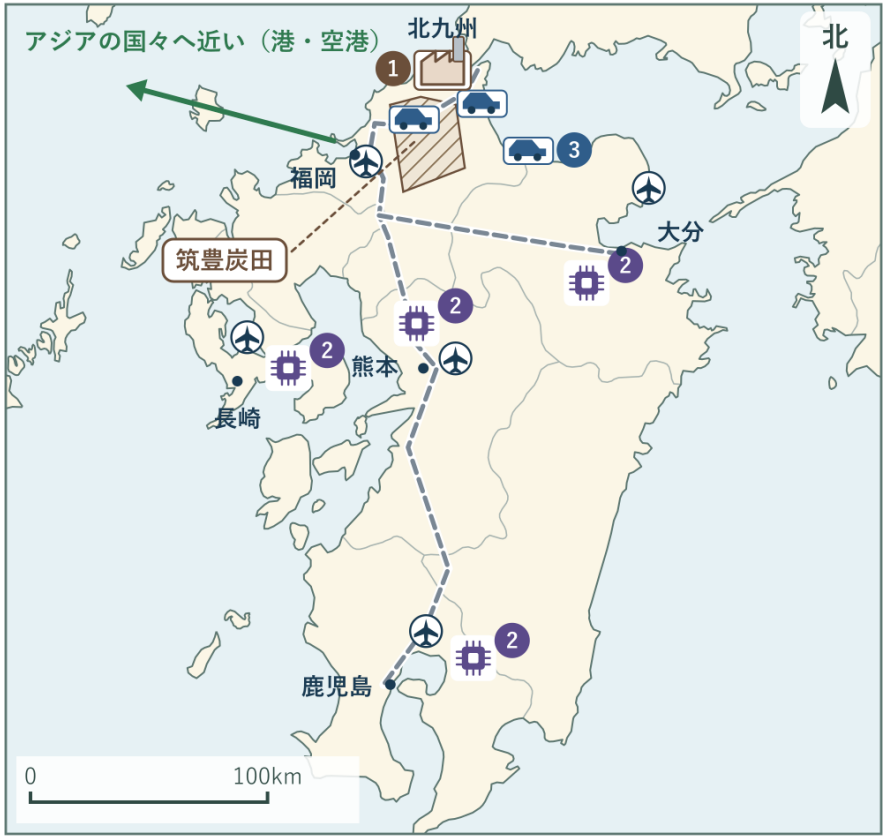
九州地方：工業の移り変わりと立地の条件

九州の工業の中心は、なぜ鉄鋼からIC（集積回路）や自動車へ移ったのでしょう

九州の主な工業の場所（例）



3 産業を中核に見る：工業の中心が移ったわけ

1 20世紀の初めから：鉄鋼

- 近くの炭田（筑豊炭田）から石炭がとれる
- 中国から鉄鉱石を船で運べる港がある
- 1901年、官営の製鉄所が北九州で操業を始めた

1960年代ごろ：エネルギーの中心が石炭から石油へ
炭鉱が閉山し、新しい工業が求められた

2 1970年代ごろから：IC（集積回路）

- 小さく軽く、値段が高い製品なので、飛行機やトラックで遠くへ運んでも利益が出る
- 空港や高速道路の近くに工場が建つ（「シリコンアイランド」）

交通網が整い、組み立ての工場も九州へ

3 1990年代ごろから：自動車

- 部品をつくる工場が、まわりに集まる
- 港から国内やアジアへ製品を運べる（アジアに近い）
- 広い土地と、働く人を得やすい

立地の条件が変わると、工業の中心も移る

資源（石炭） → 製品の性質（小さく軽い） → 交通（空港・高速道路・港）

※ 工場の記号は場所の例で、すべての工場ではない。高速道路は主な路線を模式で示した。時期は「ごろ」で示した目安。